

■児童・生徒の学力の状況

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果より、国語では思考力・判断力・表現力等を問う問題の正答率が53.1%で、全国値を12.4ポイント下回った。  
算数においては、「A 数と計算」及び「D データの活用」領域で正答率が全国値を5ポイント以上下回った。「B 図形」領域では全国値を上回ったものの、正答率は50.3%に留まった。  
また、国語では全設問で、算数では2問を除いて無解答率が全国値を上回った。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題  
※「読み解く力」の育成を踏まえて

国語では特に、文章や話の内容を捉え、理解したことに基づいて自分の考えをまとめる力、さらにそれを表現する力に大きな課題が見られる。  
算数では、複数のグラフや図表から必要な情報を読み取り、分かったことを説明する力に課題がある。  
また、国語では漢字の読み書き、算数では基本的な演算問題の正答率が全国値を下回った。4年生までに学習した内容の定着に課題が見られた。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

- 児童一人ひとりの願いや思いを叶えるために、学校・家庭・地域が一体となって協力し、地域の人材や施設等を生かした教育活動を展開する。(共育) そのため、以下の活動を展開する。
- ①GIGAスクール構想による個別最適な学びの保障と、ICT活用による授業革新
    - ・ドリルパークの有効活用と、協働的な学習を促すICTの活用の研究
  - ②iCS委員会と学校支援地域本部と連携した問題解決的・体験的な学習の促進
    - ・地域の特色を生かし体験学習を充実させ、児童相互や地域の人との協働学習を行い、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
  - ③小中一貫教育(学びのエリア)におけるめざす子ども像を意識した教育活動の展開
    - ・探究的な学びをつくる「総合的な学習の時間」を核としたキャリア教育協働カリキュラムづくり
    - ・板橋区授業スタンダードを軸とする主体的・対話的で深い学びの実現をめざす

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
<p>板橋区授業スタンダードの徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてには手段や条件等を盛り込み、児童がゴールへの道のりを明確にイメージできるようにする。</li> <li>・問題解決場面では、視点や条件等を明示するとともに、個に応じた支援により児童が達成感・満足感を味わえるようにする。</li> <li>・何が分かったか、何が分からないのかを言語化させ、主体的な学びに直結する振り返りの時間を確保する。</li> </ul>	<p>読み解く力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章や図表を読む際には教師が視点を明示し、読み取ったことをノートに書かせ言語化させることを重視する。</li> <li>・本時の目標を達成するための手段として、6つの基礎的読解力のうち1つ程度を取り入れる。</li> <li>・指導用語・既習事項・語彙のアセスメントを重視し、「分かっているはず」で授業を進めない。</li> <li>・各教科等において共書きの徹底、読書活動の推進を実践する。</li> </ul>	<p>総合的な学習の時間との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究的な学習の過程を一層重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、児童が課題解決場面において活用できるようにする。これを実現するために、全教員が義務教育9年間の各教科・領域等の連続性・系統性を意識し、互いに連携を取りながら教育活動に取り組む。</li> </ul>

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「響き合う学びのエリア」として志村第五中学校との連携を一層強化する。年3回の連携研修や教員及び児童・生徒の交流を通して、読み解く力の育成を念頭に学習指導力の向上を図る。</li> <li>・「主体的に地域に関わる児童の育成」を本年度の研究主題に設定した。地域と連携し、対話から課題を解決する生活科・総合的な学習の時間の授業を通して郷土愛を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活科及び総合的な学習の時間、特にキャリア教育と防災教育を軸に義務教育9年間で系統立てたカリキュラム・マネジメントを推進し、主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。</li> <li>・地域からの手厚い支援を強みとして生かしながら、教育内容や時間の配分、必要な人的・物的体制の確保、教育課程の実施状況に基づく改善などを通して、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報に関する「基本的な操作等」「問題解決・探究における情報活用」「プログラミング」「情報モラル・情報セキュリティ」の4つの学習内容を、各学年の教科・領域等に適切に位置付け、教科横断的な視点から教育活動全体を通して情報活用能力の確実な育成を図る。</li> <li>・一人一台端末を活用して、「ドリルパーク」などの個に応じた学習や調査活動、表現・製作、発表や共同的な学びを実現し、情報活用能力を含む資質・能力を育成する。</li> </ul>